



# 7がつ ほけんだより



令和5年6月30日  
社会福祉法人 顕陽会

内科検診・歯科検診・尿検査もおわり、子どもたちの健康状態の把握もできたと思います。検診で声掛けがあった方は、早めの受診をお願いします。

7月からは、子どもたちの大好きな水遊びが始まります。水遊びをするとかなりの体力が消耗します。十分な栄養を取り・水分補給・休息をとり、疲れをためないように生活リズムを整えていきたいものです。

夏にはやる病気を紹介します！！



子どもたちの体調に異変を感じたら、早めに病院の受診をお願いします。子どもさんの様子を担任と共有をしたいと思います。よろしくお願いします。

## とびひが増える季節です

とびひ（伝染性膿痂疹）は夏に多く見られます。虫に刺された跡を汚れた手でかくなると細菌（ブドウ球菌など）が感染し、そこで繁殖します。初期に水ぼうがができますが、すぐに破れてじゅくじゅくした状態になります。その部分を触った手で別の場所を触ると、そこにもとびひが広がります。



### 主な症状

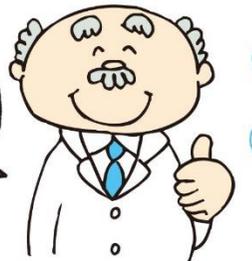
- 皮膚に小指のつめくらの水ぼうがができる
- 水ぶくれや、赤くじゅくじゅくした、ただれた状態になる
- 強いかゆみがある

### 家庭での手当て

- じゅくじゅくしている部分はガーゼで覆ってください。
- お風呂はシャワー程度にして、タオルも個別にしましょう。タオルを共有して感染することがあるからです。
- 完全に乾燥するまで感染力がありますから、乾燥するまではガーゼで覆い、プールは禁止になります。



感染力が強いため、医療機関を受診し、薬をもらってください



### きょうだい間での感染に注意！

**プール熱**

熱が出て、目の充血や目やに、涙が出る「プール熱（咽頭結膜熱）」。

0、1、2歳児がかかるのはまれですが、感染力が強いため、上の子が発症するとそこからうつることも。目やにや涙から感染するので、同じタオルを使うのはいけません。洗濯も別にして感染を防ぎましょう。

感染してしまったら、医師の許可が出るまで、園をお休みします

### 「ヘルパンギーナ」に注意

のどの奥に水ぼうがができる「ヘルパンギーナ」がはやっています。夏かぜの一種でそれほど心配はありませんが、のどの痛みが強く、食事や水分がとりにくくなるのが特徴。高熱が3日以上続いたり、水分をとれなかったりするときは、急ぎ病院へ。

**症状**

- 38～40℃の高熱が2～3日続く
- のどの奥に白いぶつぶつができる
- のどの痛み
- 食欲不振 など

**ケア**

- かぜと同じケア
- こまめな水分補給
- 薄味のスープや豆腐、プリンなど、のどごとと消化のよい食事

熱が下がって1日以上たち、いつもどおり食事ができるまでは、園をお休みしましょう。

### 手足口病にご注意を

手のひら、足の裏、口の中に小さな（米粒大の）発しんや水ぼうがができる手足口病。実は、おしりや皮膚のやわらかい所にもできたり、痛みやかゆみを伴い発熱したりすることも。また、口内炎が悪化して食欲が落ちたり、まれに髄膜炎などの合併症を起こしたりすることがあるので、注意が必要です。

登園は、熱が下がり、1日以上たって普段の食事ができるようになってから。